

第1学年・生活科学習指導案

指導者 長浜市立高時小学校
臨時講師 中川勲子

1、単元名 「あきのおもちゃランドへようこそ」

2、単元目標

- ・身近な自然物や身の回りにあるものを活用して、友達といっしょにおもちゃを作ることができる。 (知識・技能)
- ・おもちゃ作りや遊び方を通して、秋の自然物のおもしろさや不思議さに気付き、自然と触れ合う楽しさを感じることができる。遊びの場では、相手や場面に応じて行動できる。 (思考・判断・表現)
- ・安全に気をつけ、友達と工夫して楽しく遊ぶことができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3、単元について

(1) 教材観

本単元では、集めた木の実や葉っぱなどの自然物や身の回りにある物を使っておもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりすることを通して、自然物を使う遊びの面白さや自然のよさ、不思議さに気付けるようにする。

木の実や葉っぱを扱う活動自体は、子どもたちにとって興味・関心の高いものであるが、作りたいものがうまくイメージできなかつたり、手先の器用さや経験の差異により思い通りにおもちゃが作れないことが予想される。そのため、子どもたちが関わり合いながら活動することによって、自分や友達のよさに気付いていけるよう、教師が適切に支援していく必要がある。

この単元では、自分たちが作ったものを使ってみんなで遊びを楽しむこともねらいとしている。みんなで遊ぶことで、「さらによくしたい。」という意欲に繋がるだろう。また、異学年交流をすることで上学年のアイデアを次に生かしたり、園児との交流によって相手を意識した工夫も期待される。このように、いっしょに楽しく遊んだり、相手の喜ぶ姿を感じたりすることで、人と関わることの楽しさや自分自身の成長の気付きへ繋げていきたい。

(2) 児童観

本学年の児童は、豊かな自然環境のためか生き物などに興味・関心の高い児童が多い。「いきものとなかよし」の単元では、捕まえた昆虫などの世話を、図鑑で調べて熱心に行った。

秋の木の実や葉っぱについては、子ども園のときに「どんぐりごま」を作って遊んだ経験がある。よって、楽しく学習に取り組めるであろう。しかし、言われたことには素直に取り組むが、「自分で工夫する」ことの苦手な児童が多く、すぐに教師を頼ろうとする姿が予想される。

(3) 指導観

少人数学級であるため、一人1つのおもちゃを計画し制作させる。それによって、人任せにせず自分で考えよう、自分で何とかしようという責任感が生まれると予想される。そして、制作の段階では、困ったことがあっても「まずは友達に相談」を前提にし、友達と協力しようとする力を育み、友達のよさに気付く機会としたい。

また、小規模校のため異学年との交流が多い。そのよさを生かし、制作中や遊びの段階などで、アドバイスしてもらったり遊びに来てもらったりするなどして他学年の力を借り、意欲の持続に繋げたい。

学習の出口としては、幼稚園児との交流を計画している。児童が園児の時に、同様に現2年生に招待され楽しかった体験が記憶として残っている。同じように、園児たちにも楽しんでもらいたいと張り切って取り組めるであろう。更に、一度の交流に終わらず、交流の機会を増やすことで、作品の質の高まりや児童の作品への愛着や値打ちの深まりも期待される。

(4) ESD との関連

・学習を通して主に養いたい ESD の視点

【多様性】：友達の作ったおもちゃで遊ぶことで、いろいろなアイデア、作品、遊び方があることに気づき認めることができる。

【連携性】：友達と協力して活動ができる。遊びを通して、いろいろな人（園児、園の先生、上学年の児童）と関わるができる。

【責任性】：おもちゃを最後まで仕上げ、遊びの会や園児との交流会で、自分の役割を果たすことができる。

・学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーション力：友達に尋ねたりアドバイスしたりできる。遊びの場で、説明したり質問に答えたりできる。

協働的問題解決力：友達と助け合いながら制作活動や交流会の運営に取り組める。

4、評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
① 身近な自然物を使ったおもちゃをイメージし、材料や作り方を計画している。	①秋の自然物のおもしろさや不思議さに気づき、絵や文章で表すことができる。	①作ったおもちゃで、友達と工夫して楽しく遊ぶことができる。
② 身近な自然物や材料を使って、遊びに使うものを作ることができる。	②遊びに使うものを工夫したり改良したりする。 ③安全に楽しく遊べるように、約束やルールを考えることができる。	②園児との交流会などでは、自分の役割を責任をもって果たすことができる。

4、単元展開の概要（全11時間）

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
<p>1、作りたいおもちゃを考える。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前単元での木の実や葉っぱを使つての遊びを思い出し、どんなおもちゃが作れるか意見を出し合う。 ・自分が作りたいものを決める。 ・作る手順、材料、道具を考え、ワークシートに絵や文でかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料集めを十分に行っておく。 ・前単元で、「どんぐりごま」「まつぼっくりのけん玉」作りなどを全員で体験し、道具の使い方を知らせておく。 ・2年生に招待してもらった「おもちゃランド」での体験を思い出させる。 ・参考となる本や図鑑を準備しておく。 	<p>◇ア①</p> <p>◇イ①</p>
<p>2、おもちゃを作る。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを基に、おもちゃを作ったり手直しをしたりする。 ・友達と相談し合ったり情報交換をしたりして工夫や改良をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の安全な使い方に十分気をつける。技能には個人差があるため、個別に配慮する。 ・困ったことが起こったときには友達に相談してみるように声をかけ、助け合つて活動できるようにする。 	<p>◇イ②</p> <p>◇ア②</p>
<p>3、友だちとおもちゃで遊び、おもちゃの改良をする。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に遊んでもらつて、自分のおもちゃを改良していく楽しさを実感できるようにする。 ・遊んだ後に感想を交流し、友達とおもちゃの工夫や良さを認め合い、作品を大切に扱うようにさせる。 	<p>◇イ②</p> <p>◇ウ①</p>
<p>4、「あきまつり交流会」（園児との交流会）の計画を立てる。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の体験を思い出し、園児たちが楽しめるように活動内容を考えさせる。 ・全員に役割分担をし、自分の仕事に責任をもって取り組ませる。 	<p>◇イ③</p>
<p>5、交流会の準備をする。①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の準備を2年生に手伝ってもらつて行い、アドバイスを受ける時間を設ける。 ・自信をもって会が進められるよう 	<p>◇ウ②</p>

<p>6、「あきまつり交流会」を開く。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児を招待して、交流会を開く。 <p>7、振り返りをし、子ども園への「おでかけ交流会」の準備をする。①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの補修や改良を重ねる。 ・小さな園児でも安全に遊べるように話し合う。 <p>8、「おでかけ交流会」を行う。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども園に出向いて、おもちゃで遊んでもらう会を開く。 <p>9、上学年の児童を招待する。(配当外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休み等を活用して、上学年児童を招待する。 <p>10、振り返りをし、感想を交流する。</p> <p style="text-align: right;">①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、カードに書く。 ・感想を交流する。 	<p>にリハーサルや確認をしっかりと行っておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに役割を決め、責任をもって仕事をしようという意欲をもたせる。 ・対象が変わるため、おもちゃの強度を増したり、ルールの簡略化の必要性などに気付かせる。 ・まだ言葉でうまく気持ちを伝えられない園児と関わることで、相手の気持ちを察しようとする態度を育む。 ・園児の安全に十分留意させる。 ・学校生活でお世話になっている上学年への感謝を伝える機会とする。 ・放送したりポスターを作ったりして、広報活動を行う。 ・感想を発表し合って、お互いのよさを伝え合い、自分や友達の活動の成果や成長を実感できるようにする。 	<p>◇ウ② ◇イ③</p> <p>◇イ③</p> <p>◇ウ②</p> <p>◇ウ②</p> <p>◇イ①</p>
---	---	--